



平成26年度 第1回高等教育改革フォーラム



# 地学連携と学習コモンズシステムによる 地域人材の養成と地域再生

奈良県地域振興部長  
野村 政樹

平成26年8月1日



## 奈良県立大学のミッション

- (1) 「地域創造学部」 1 学部の単科大学  
学生654名、教員29名、職員18名（平成26年5月1日現在）
- (2) 建学の精神  
「人と社会の未来を創る」
- (3) 育成する人材像  
「地域創造学士」、すなわち、主体的行動力、創造力、状況対応力、学び継続力を備えた「地域づくりに貢献できる優れた人材」を養成する。
- (4) 3つのポリシー
  - ▶アドミッションポリシー  
本学の建学の精神と教育理念に共感し、自ら考え、自ら行動する学習意欲の高い学生を受け入れる。
  - ▶カリキュラムポリシー  
本学の教育理念に基づき、地域の未来づくりに貢献できる人材を育成するための教育課程を編成する。
  - ▶ディプロマポリシー  
高い教養と、人と社会の未来を創るために必要な専門知識および創造力を身に付けた学生に卒業を認定する。



## 地域志向の大学を目指した大学改革の推進

- (1)2001年「創生期」 商学部を改組転換し、地域経済学科と観光経営学科からなる地域創造学部を創設
- (2)2007年「第1改革期」 地域総合学科、観光学科に名称変更  
科目新設、教員増員に伴いフィールド教育の量・質を向上
- (3)2010年「第2改革期」 カリキュラムを再編し、学生の主体性と創造力を養成
- (4)2014年「第3改革期」 地域総合学科と観光学科を統合し、地域創造学科を設置

全学体制で取り組み、「奈良県立大学＝地（知）の拠点となる地域志向の大学」として他大学との差別化を図る。

2013年度 地（知）の拠点整備事業に申請、採択。  
（平成25～29年度 補助対象経費総額 約2億円）



## これまでにない特色ある教育方法と教育の質の向上

### (1) 「学習コモンズシステム」による徹底した対話型少人数教育

▶ 1つのコモンズにつき学生（30～40人）と教員（8人）による志向性をもった学びの共同体として4つの領域の学習コモンズを設ける。

▶ ゼミを重視した教育

卒業必要単位数124単位のうち44単位をゼミ教育に配分

1年：基礎ゼミ（4単位）、2～4年コモンズゼミ（40単位）

### (2) 課題指向型教育

▶ 4つの領域（観光創造、都市文化、コミュニティデザイン、地域経済）

▶ 多様な地域課題に対してそれぞれの課題解決のフレームワークから学際的なアプローチによる学びを提供する。

### (3) 解決指向型教育

▶ 課題の理論的な解決ではなく、実現可能な解決の方法を模索し、提示するため、PBL（プロジェクト・ベースト・ラーニング）による実践型教育を行う。

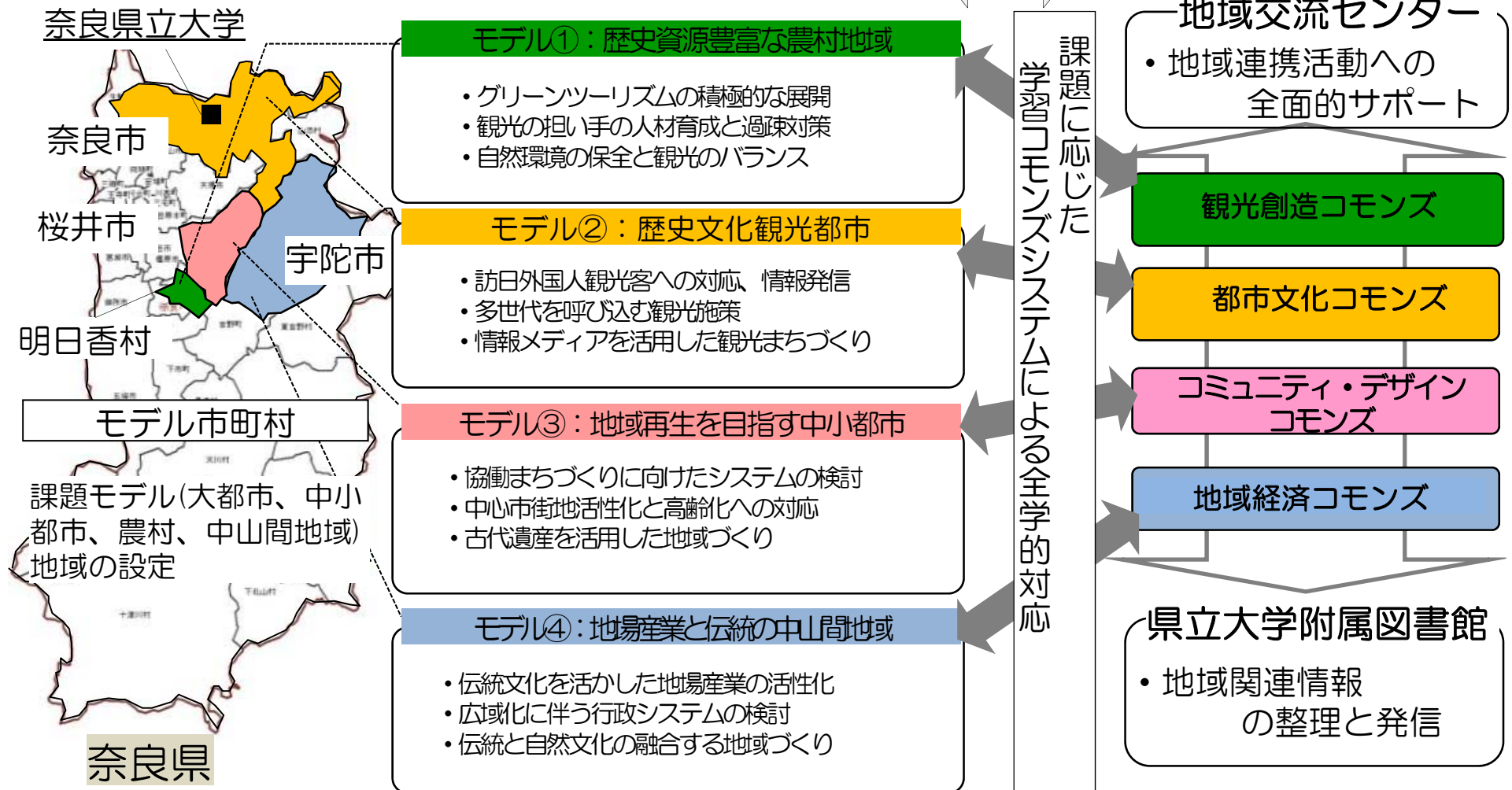
▶ フィールドワークを必修化し、単位を認定（8単位）することによって、課題解決能力を養う。



# 県内自治体の課題と奈良県立大学の資源の活用

## ■ 県内市町村の主要な課題(ニーズ)

## □ 大学の資源(シーズ)







## 県立大学学生による実地研究の事例

### ◆鉄道会社と連携してツアー商品を企画



**子供だけの体験学習** 奈良県立大学×近畿日本鉄道  
連携ツアー

**大学生と学ぶ！**  
**夏休みの自由研究**  
歴史ある商店街で文化・自然を調査！

**ツアー5大特典！**

- ①自分で作り上げる！オリジナル自由研究冊子
- ②内容を更に深める！自由研究ブックレット
- ③がんばったみんなに！オリジナル修了証書
- ④奈良県立大学周辺のオリジナルマップ  
ナラクエマップ
- ⑤夏休みの記念に！集合写真・スナップ写真  
(画像はイメージです)

▲楽しいゲーム風ナラクエマップ

▼実施日  
平成26年8月22日(金)  
(雨天決行・荒天中止)

▼参加人数  
小学4～6年生：計40名  
(最少催行人員30名)

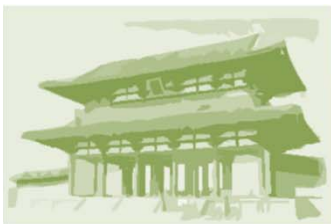
▼旅行代金(小児)  
近鉄上本町駅から2500円  
※旅行代金に含まれるもの…  
近鉄往復乗車券、昼食代金、イベ  
ント費用および諸税など

大学生のお兄さん、お姉さんと  
奈良のまちを探ってみよう！

### ◆「着地型観光と歴史ガイドツアー～あすか歴史探検隊～」の研究発表が、2013年度実施の第10回産学連携オープンセミナー 最優秀賞を受賞



○県立大学の学生が中学生に遺跡を解説する様子



## 地域交流センターの設置

従来あった地域貢献センターと就業力育成センターを拡充し、国際交流機能を加えた「国際交流室」「地域交流室」「キャリア・サポート室」で構成する地域交流センターを平成25年4月に開設。

### 【地域交流室】

教育研究のためのフィールドワークの支援、高大連携の支援、地域との連携協力に基づく地域貢献等の地域交流支援を行う。平成26年1月に地域サテライトを桜井市に開所。

◆県内市町村等との連携協定締結数 16団体

### 【国際交流室】

学生のコミュニケーション能力・異文化理解能力等の国際性を高め、国際社会で活躍できる人材を養成するため、留学生の派遣及び受入れ、海外の大学との学術交流をサポートする。

### 【キャリア・サポート室】

従来の大学教育に加え、学生が自己のキャリアを形成して卒業後の社会的・職業的に自立することを支援する。

◆就職希望者の就職率 H23－96.1% H24－98.6% H25－100%



## 教員の任期制について

- ・平成26年度のコモンズ制導入に伴う教員採用から任期制を導入
- ・公募による採用を実施
- ・選考に外部有識者が参加

| 項目   | 主な内容   |
|------|--|
| 根拠法令 | 「大学教員等の任期に関する法律」に基づき学内規則を整備  |
| 任期   | ・3年（1回目更新後の任期は2年）<br>※通算5年で無期の労働契約への転換を請求できる                                     |
| 再任   | ・外部委員を含む再任審査委員会を設置し再任審査を実施<br>・研究業績と研究・教育・社会・大学活動を評価<br>※ 公立大学法人化後は、理事会において再任を決定 |

※現任教員については、法人化の際に本人同意のうえ、任期制に移行する予定。





## 奈良県立大学シニア・カレッジの実施

- 奈良県立大学の社会貢献事業として実施。
- 単に同世代だけで学ぶのではなく、若い学生と同じキャンパスで一緒に学べる。
  - ・基礎を学んだうえで、大学の一般教養科目等の受講につながることも期待
- ①国語(国語総合)、②国語(古典)、③歴史(日本史)、④歴史(世界史)、⑤英語、⑥大学教員等による多様な講義を、高等学校の教科書をテキストにして1科目(90分)につき年間35コマ実施。

### 【特別講義を行う大学教員等の例】

田辺征夫元奈良国立文化財研究所長、菅谷文則  
檀原考古学研究所長、奈良県立美術館学芸課長、  
奈良県立万葉文化館研究員

◆当初各科目40名、計200名  
募集としたが、応募多数のため  
科目の分割、クラス定員の増で  
対応。

| 講座別受講者数(名) |              |      |
|------------|--------------|------|
| 講座名        | 受講決定者数(名)    | 計(名) |
| 国語(国語総合)   | 70           | 70   |
| 国語(古典)     | 64           | 64   |
| 日本史A・日本史B  | 70           | 75   |
| 世界史        | 81           | 81   |
| 英語A・英語B    | 73           | 59   |
| 計(名)       | 492(実人数 475) |      |

※上記受講者数は正規の受講者数であり、体験受講者を含まない



## 改革を進める大学に対する県の支援

- 大学の地方独立行政法人化実施(平成27年4月)
  - ・柔軟な運営体制を取り入れることにより機動的な事業執行が可能
- 地域に開放する施設や対話型少人数教育に対応した施設を整備
  - ・地域交流棟の整備(平成26年度)
  - ・その他、教室、図書館、体育館等を整備予定(平成27年度以降)